

庄司君(川崎)。本案に賛成である。我々の資本主義は外には欧米の大資本に悩まされ、内には然々労働者の指頭に力背かされ、おる。本制度は労働者を苦しめ、吾々を解放を遅からしめ、更に反動的分子を作るおとれがある。故に速に本制度を撤廃すべきだ。長江君(北豊島)。討論打ち切りの動議を提出します。(異議なし)——成立。

議長。本案に賛成の方は挙手を願ひます。(満場一致可決)

関根君(豊岡)。六時半まで休憩の動議を提出します。

山口君(北豊島)。特別委員を挙げる事はどうなったか。

金子君。新任執行委員会に一任したらどうですか。(声——異議なし)

議長。只今の議案の特別委員は新任執行委員会一任で異議ありませんか。

(満場一致。新任執行委員会一任と決定)

次に休憩の動議が出て居りますか異議はないか。(異議なし)では六時半まで休憩します。(時に五時五十分)

〔再會〕

議長。再會します。議事に入る前に祝電を披露します。(書記朗讀)

竟義ある大会を祝す
 横浜合同労働組合
 大会を祝す。全日本組合運動の指導者として
 名古屋機械技工組合

議長。議事日帳に入ります。

(六) 定期的宣傳デーに関する件(京橋支部提出)
 (六) 調査宣傳デーに関する件(北豊島支部提出)

(右二案一括上提) 説明者 吉澤君

〔理由〕 評議会拡大中央委員会。在米の労働者組織方法を排し、計劃的意識の組織方針を次議してゐる。即ち一般の及び特定の要求を掲げて未組織大衆に訴へる事、及び抽象的宣傳に依らず、未組織大衆の日常生活に於いて、並に休養組合及び自主的工場委員会と活用し、これと未組織労働者と組織する一手段とする事等である。之等の方法を実施する行するためには、一般組合員に於て、多方法と務につぎ、組織大衆に充分な宣傳の必要とする。と同時に未組織大衆の間に、共通の特殊のストロークを掲げて計劃的のしかも定期的の宣傳すべきである。かゝる宣傳は容易に被筆の共鳴を喚起し、労働組合の必要を痛

感せしめるに至る。依て本案を提出する。

〔実行方法〕

工場分會は組織部統制の下に、宣傳委員会を組織し、毎日一回定期に次の如き方法を実行する。

(1) 日常闘争のストロークを中心題目とせし、ヒラキを製作して未組織労働者に配布し、或はヒラキを工場乃至労働者道路に掲げること。

(2) 此の日、宣傳委員は一齋に組合案内書其の他を携へ、各職場を巡りて動議し、登録すること。

以上

説明者 吉澤 雄 君

先づ調査デーの説明から初める。未組織労働者を組織するには闘争題目を掲げねばならぬ。今までの如く、何処にでも通用する様な抽象的だもの、てなく、各工場々の特殊の行事情に立